

社会経済学2 (2012年度後期)

第1回: イントロダクション

担当者: 佐々木 啓明*

*E-mail: sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp; URL: <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~sasaki/>

——はじめに——

過去2年間の内容を一新し、「経済変動論」の内容を含むものとする。

基本的には講義概要(シラバス)どおりに進める。

評価: 期末試験, 経済学部生は100点満点, 法学部生は90点満点。

→ 試験問題は講義中の練習問題から主に出題される。

講義ノートのパスワード:

★10月30日の授業は休講(海外出張のため)

——各テーマの概要——

1. 新古典派成長モデル: ソロー・モデル (Solow, 1956). 定常状態への安定的な収束. 完全雇用を仮定. 伸縮的な生産関数を仮定. 技術進歩は外生的.
2. 内生的成長モデル: ローマー・モデル (Romer, 1990). 研究開発と経済成長の関係. 研究開発 (R&D) への投資により, 技術進歩が内生的に生じる.
3. マルクスの経済変動論: 再生産表式, 利潤率傾向的低下の法則, 恐慌の発生. 資本制経済が順調に再生産を行ってゆくためには, 每期どのような条件が満たされなければならないか. 単純再生産 (資本蓄積なし) と拡大再生産 (資本蓄積あり) の比較.

4. ハロッド・モデル: 不均衡累積の過程, 保証成長率, 自然成長率. 保証成長率は資本設備の正常稼働(完全稼働)を保証する成長率. 自然成長率は完全雇用を維持するために必要な成長率. 現実の成長率 \neq 保証成長率 \neq 自然成長率. 不安定性原理(ナイフエッジ).

5. カルドアの景気循環モデル: 非線形マクロ動学, 永続的な景気循環, 不均衡マクロ動学モデル, 非線形の投資関数, ポアンカレ=ベンディクソンの定理によるリミット・サイクル発生の証明.

6. グッドウィン・モデル: 循環的成長, 階級間の対立, 最低賃金政策の導入. 資本家と労働者の対抗関係により, 景気循環が内生的に発生する. 利潤分配率上昇 \rightarrow 投資増大 \rightarrow 雇用増大 \rightarrow 労働者の交渉力増大 \rightarrow 賃金上昇 \rightarrow 利潤分配率低下 \rightarrow 投資減少 \rightarrow 雇用減少 \rightarrow 労働者の交渉力低下 \rightarrow 賃金低下 \rightarrow 利潤分配率上昇...

7. 古典派の成長モデル: 慣習的賃金および慣習的賃金シェア, マルクス偏向的技術変化. 実質賃金あるいは労働分配率を外生的に与えたモデルを閉じる. 完全雇用は仮定しない. 労働生産性が上昇し資本生産性が低下するとき, 分配率が一定ならば, 利潤率は必然的に低下し, それゆえ資本蓄積率は低下する.
8. カレツキアン・モデル: 儉約の逆説, 賃金主導型成長, 利潤主導型成長. 有効需要の原理, マークアップによる価格形成のモデル. 貯蓄率の上昇は成長率を低下させる. 実質賃金の増大は成長率を上昇させる.
9. ボーモル・モデル: 2部門モデル, 不均等成長, 経済のサービス化がもたらすもの. 製造業とサービスの2部門モデル. 製造業部門の生産性上昇率はサービス部門のそれより高い. サービス需要は非弾力的. このとき, サービス部門の雇用シェアは上昇し, 経済成長率は低下していく.

10. パシネッティ・モデル: 多部門モデル. 完全雇用を維持することの難しさ. 有効需要の原理が働き, 労働のみが生産要素のモデル. 完全雇用条件が導出され, それを満たすのは現実的に困難であることが示される.